

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学	高校								

教職員向け英会話教室

「イングリッシュ・カフェ」

実施時期：平成30年～令和2年
任用団体名：熊本市



Bailey Gaudin さん

取組のポイント

- 同僚教職員との交流を深めるとともに、教室の内外で英語力の向上に貢献するために、ベイリーのイングリッシュ・カフェ（BEC）を開催。
- BECについてポスターやパンフレットを作成し、職員室の壁に掲示などを行った。

任用団体の基本情報

人口：729,058人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：（ALT）54人（CIR）4人（SEA）0人

学校数：小学校92校、中学校42校、高等学校2校、特別支援学校2校

取組の背景・課題

勤務している小学校では、英語に高い関心を持ちながらも英語学習の始め方に迷っている教職員が多かった。

同僚教職員との交流を深めるとともに、彼らの英語力向上を支援する目的で、私がJET-ALT 1年目の時にベイリーのイングリッシュ・カフェ（BEC：Bailey's English Cafe）を提案した。

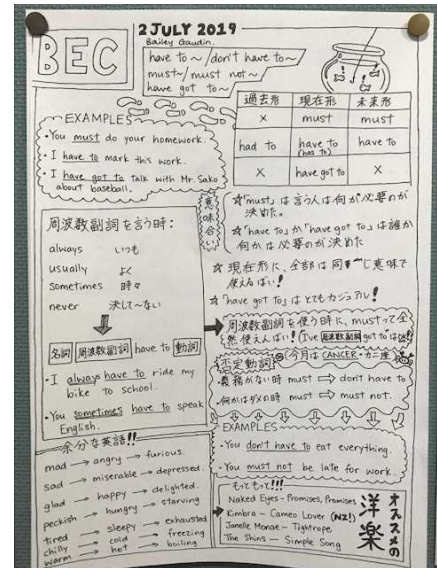
毎週火曜日の午後4時～5時に、参加したい教職員と時間のある教職員のために開催した。

取組の内容

- 毎週火曜日の午後4時～5時に、参加できる教職員を対象に学校の図書館で開催した。
- BECは会話に重点を置いた内容で、教職員の興味を反映したテーマ（旅行先での食事の注文、健康と身体、音楽など）に関する簡単な文法やフレーズも教えた。
- 基本的に授業や資料の準備はすべて自分で行い、可能なときに英語専科の教職員に意見をもらった。
- 参加したくてもできない教職員のために、BECの情報をA4サイズのポスターやパンフレットにして、「英語通信」のような形で職員室の壁に掲示したり、教職員がコピーして持っていけるように、私の机の上にも置いていた。

取組の内容（続き）

- 私は美術が得意なため、ポスターやパンフレットは手書きで作成した。日本語の文章を練習するよい機会となった。
- ポスターの作成にパソコンを使わないことで、授業がない日や用事がないときに自宅や他の学校に持ち帰って作業することができたが、パソコンを業務時間外も自由に使用できるのであれば、より簡単に作成できたと思う。
- 辞書や翻訳アプリの使用は禁止し、自分自身や他の人に尋ねるよう促した。質問された人も学習できる機会となる。
- BECの時間には、リラックスして参加してもらえよう心掛けた。
- レッスンの終盤には、質問タイムや、英語で知っていること・学んだこと（例：おすすめの英語の歌、時事問題など）を共有した。翌週のテーマを決めて、もっと学びたいこと、練習したいことがあれば話し合った。
- 教職員が忙しくなると、継続して実施することが難しくなり、なかなか再開できないこともあった。



JET-ALTが作成したポスター

取組の成果・今後の展望

参加した教職員は、自分の英語力に自信を持つようになった。教職員は、私と一緒に授業をするときや生徒の英語活動をサポートするときに、英語を使う頻度が増え、生徒もその恩恵を大いに受けることができた。

私はこのアイデアを熊本市内の他のJET-ALTとも共有し、それぞれの学校の教職員と仲良くなりながら英語学習を手助けする方法について話し合っている。

その影響からか、他の学校でも昼休みに同じ様なイングリッシュカフェが開催されている。生徒がJET-ALTと直接会話したり、授業で習った英語を練習したりできるようにしている。

問合せ先

担当部署名：熊本市教育委員会指導課

T E L : 096 328 2721

M A I L : kyouikushidou@city.kumamoto.lg.jp

U R L : https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=5&class_set_id=3&class_id=825

